日本橋学館大学

平成21（2009）年度

年次報告書

刊行にあたって

学長　　横　山　幸　三

かつて筑波大学に勤務していた頃、学長の直属機関である「企画調査室」に関わったことがある。「企画調査室」とは、全学の現状を調査し、将来の企画立案を図る重要な機関であった。当時は、「自己点検・評価」が始まったばかりであったが、他大学に先駆けて「外部評価」の導入を図ったのも、この「企画調査室」であった。その中で、恒例となっていたのが、大学の『年次報告書』作成である。各組織から上がってくる膨大な資料を整理する作業が、室長以下わずか7名に一任される。実際のところ、時間との格闘で、大変に忙しい思いをした。にもかかわらず、少なからずやりがいを覚えたのは、この仕事を通じて、大学の全体像がほぼ把握できたことである。先ずは、現状認識をする。その上で、改善・発展という道筋をつけるという手法を、ここで学んだ。

平成18年3月に、本学の第2代目の学長として就任したときに困惑したことの一つとして、本学の現状を知る術が余りにも少ないということがあった。平成16年3月に発行された自己点検・評価報告書『日本橋学館大学の現状と課題』が唯一ともいえる資料だったので、これは繰り返し読んだ。少なくとも 5 回は読み返している。しかしながら、それ以降のことについては、教授会議事録その他の資料によって、現状把握に努めたが、何度となく、『年次報告書』のようなものがあれば助かるのにと思ったことである。

本年度は、「認証評価」の受審年度でもあり、6月末には日本高等教育評価機構に『自己評価報告書』3点セットの提出を済ませている。「認証評価」は、7年に一度と義務付けられているが、『年次報告書』は毎年発行することになる。今回の第 1 号を皮切りに、今後欠かすことのないように努めたいものである。『年次報告書』は、本学の現状を部外者に知らせるのが目的ではなく、何よりも自らの姿を客観的に把握するために必要不可欠な資料だからである。また、このたびの刊行は、本学の開学10周年記念事業の一環としても、誠に意義深いものがある。「年次報告書作成チーム」の労を多とし、ここに深甚の謝意を表したい。

目　　次

１．建学の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３．学事関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４．教育研究組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
５．法人役員・評議員・教職員の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
６．教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　６－１　教育課程
　６－２　３学科の教育目的
　６－３　クロスオーバー履修制度
　６－４　初年次教育
　６－５　少人数教育
　６－６　「ゼミナール」の目的と目標
　６－７　教職課程
　６－８　学芸員課程
７．研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　７－１　教員の研究業績
　７－２　研究・委員会活動
　７－３　研究所・センター・その他
８．学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　８－１　学部・学科の学生定員および在籍学生数
　８－２　留学生支援
　８－３　奨学金制度
　８－４　健康相談、心的支援、生活相談等
　８－５　就職・進学支援
　８－６　卒業生の進路
９．学生のクラブ・同好会活動等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
１０．社会的活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
　１０－１　生涯学習支援センター
　１０－２　大学コンソーシアム柏
　１０－３　図書館関係
　１０－４　日本橋学館大学協力会
　１０－５　出張授業
　１０－６　地域における活動
１１．募集活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
　１１－１　「大学説明会」の開催
　１１－２　学長による高等学校長訪問
　１１－３　本学専任教員による高等学校訪問
　１１－４　併設校との交流
　１１－５　オープンキャンパスの開催
　１１－６　入学試験の実施
１２．管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
　１２－１　校地、校舎等の面積
　１２－２　講義室、演習室、学生自習室等の概要
　１２－３　管理運営体制

１．建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が＜質実穏健＞という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この＜質実穏健＞は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正 4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第１条に、「本財団は、質実穏健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とす」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和 26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第２章第３条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穏健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に十分に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の４年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第１章・総則の第１条（目的）には、次のように記されている。

> 日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穏健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」〈質実穏健〉は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、＜質実＞とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、＜穏健＞とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定

義から出発して、最終的には＜質実穏健＞の現代的意義を、次のように定義することとした（平成 19（2007）年 7 月 18 日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穏」は、心の有り様が「穏」やか、安らかなこと。「穏」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、＜質実穏健＞な人材の育成に要する「教育内容」として、＜質実＞であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、＜穏健＞であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を 2 本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成 21（2009）年 4 月より、本学は「建学の精神」である＜質実穏健＞の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させている。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修制度」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」（社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」）を培うことを目指している。

２．沿革

「建学の精神」でも語られているように、本法人は 100 年を越える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

明治 37(1904)年	(社)日本橋区教育会に対して日本橋女学校(本科定員 140 名､修業年限 4 年)の設立認可
明治 38(1905)年	日本橋蛎殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穏健』の教育方針訓示
明治 38(1905)年	５月１日、第一幼稚園舎で授業開始（創立記念日の起源）
明治 39(1906)年	高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校（４年制）に組織変更認可 （当時、東京府下の高等女学校は府立４校を含めて７校）
明治 43(1910)年	柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限 5 年､定員 400 名に変更
大正 4(1915)年	財団法人日本橋女学館設立認可

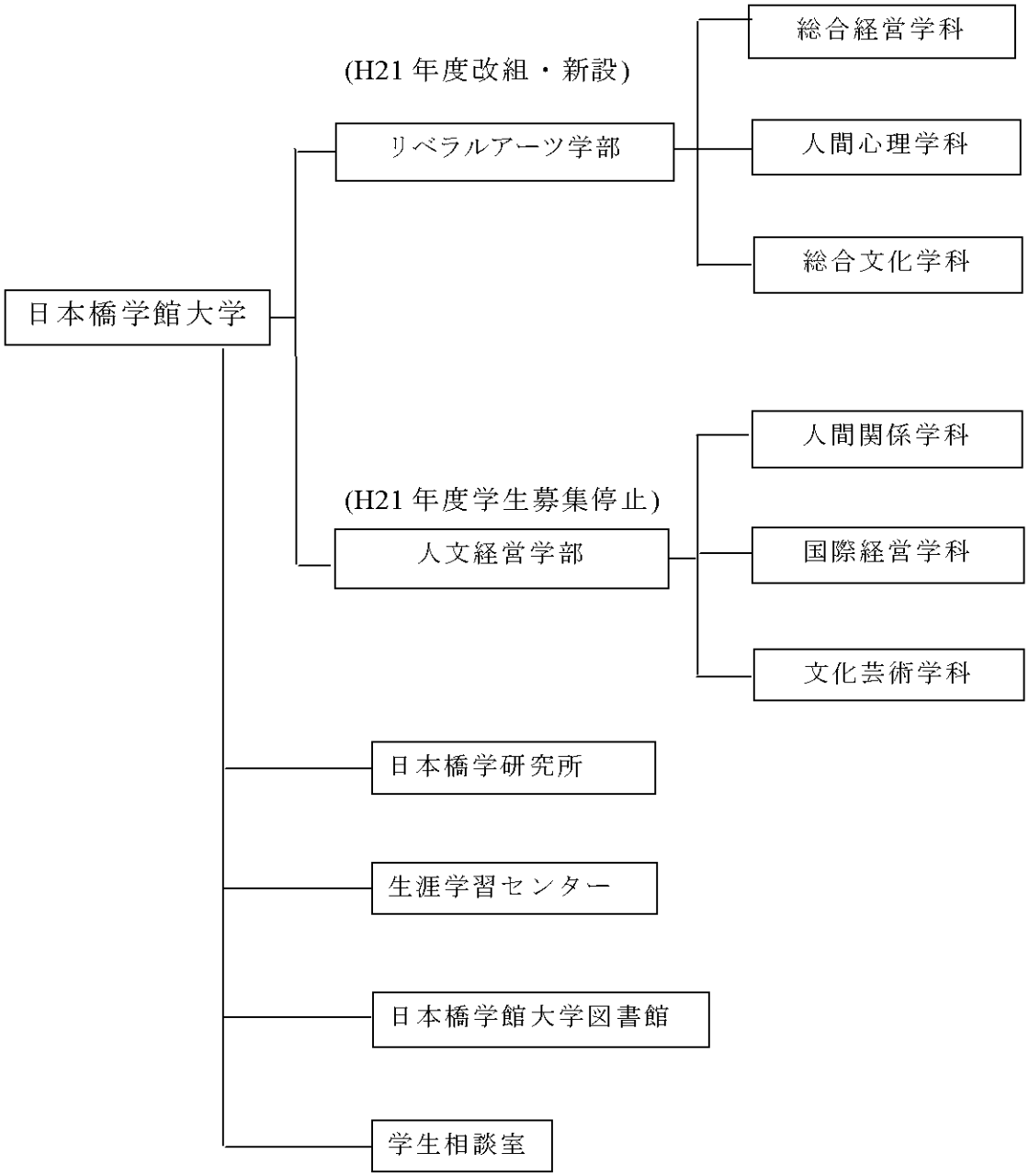
昭和 22(1947)年	学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる
昭和 23(1948)年	私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称
昭和 26(1951)年	財団法人日本橋女学館より学校法人に組織変更認可
昭和 30(1955)年	創立 50 周年記念事業実施
昭和 40(1965)年	創立 60 周年記念式典（秩父宮妃ご来臨）
昭和 54(1979)年	市川学校園研修センター（寄宿舎、テニスコート、グランド）完成
昭和 61(1986)年	日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員／秘書科 100 名・英語科 100 名
昭和 62(1987)年	日本橋女学館短期大学開学（初代学長：角井　宏）
平成 7(1995)年	創立 90 周年記念式典
平成 11(1999)年	日本橋学館大学設置認可。入学定員／人文経営学部人文経営学科 250 名
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学（初代学長：小谷津孝明）
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式
平成 13(2001)年	日本橋女学館短期大学閉学
平成 16(2004)年	日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を 3 学科（人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科）に組織改組
平成 17(2005)年	創立 100 周年記念式典
平成 18(2006)年	第二代学長：横山幸三　就任
平成 21(2009)年	日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部に全面改組。3 学科（総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員 225 人）を設置。教職課程・学芸員課程を設置。

3．学事関係

・平成 21 年 4 月 1 日　　入学式（新入生 91 人）
・平成 21 年 4 月 2 日～ 4 日　　ガイダンスウィーク
（履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等）
・平成 21 年 4 月 6 日　　前期授業開始
・平成 21 年 5 月 1 日　　創立記念日
・平成 21 年 7 月 17 日　　前期授業終了
・平成 21 年 9 月 24 日　　後期授業開始
・平成 21 年 10 月 24 日・25 日　　柏学祭
・平成 22 年 1 月 12 日　　後期授業終了
・平成 22 年 3 月 19 日　　第 7 回卒業式（平成 21 年度計 168 人）

４．教育研究組織

学部改組に伴う移行措置のため、平成 21 年度は人文経営学部（2 年次以上）とリベラルアーツ学部（1 年次）が並置されている。



５．法人役員・評議員・教職員の概要（平成 21 年 5 月 1 日現在）

［役員］

職 名	氏 名	寄附行為上の選任条項
理 事 長	細田　安兵衛	第 7 条第 1 項第 5 号
副理事長	山本　泰人	第 7 条第 1 項第 2 号
副理事長	三田　芳裕	第 7 号第 1 項第 2 号
常任理事	横山　幸三	第 7 条第 1 項第 1 号
常任理事	服部　一枝	第 7 条第 1 項第 3 号
常任理事	藤山　一郎	第 7 条第 1 項第 3 号
常任理事	揚村　洋一郎	第 7 条第 1 項第 1 号
理　事	森本　妙子	第 7 条第 1 項第 4 号
理　事	竹内　保夫	第 7 条第 1 項第 5 号
理　事	柏原　孫左衛門	第 7 条第 1 項第 5 号
理　事	岩山　康之	第 7 条第 1 項第 2 号
理　事	新堀　聡	第 7 条第 1 項第 5 号
理　事	宮入　正英	第 7 条第 1 項第 2 号
理　事	西川　惠	第 7 条第 1 項第 5 号
監　事	築地　照吉	第 8 条
監　事	中田　多嘉子	第 8 条

［評議員］

・寄附行為第 25 条第 1 項（法人の職員）-----（5 人）
　服部一枝、揚村洋一郎、藤山一郎、横山幸三、石原正雄
・寄附行為第 25 条第 2 項（卒業生）-----（3 人）
　宮田栄子、森本妙子、樋口君子
・寄附行為第 25 条第 3 項（理事会選出）-----（3 人）
　竹内保夫、新堀　聡、西川　恵
・寄附行為第 25 条第 4 項（学識経験者）-----（19 人）
　岩山康之、細田安兵衛、柏原孫左衛門、山本泰人、三田芳裕、和気潤一、
　松井厳司、廣田忠勇、石渡　茂、角井　宏、清水千枝子、渡辺　昌、繁田開作、
　梅田勝利、宮入正英、木屋幸蔵、池木　清、冨井征也、清水満昭

［専任教職員］

大学教員：38 人　大学事務職員：25 人
高校教員：26 人　高校事務職員：　9 人
中学教員：　9 人　中学事務職員：　1 人
法人本部事務職員：　1 人
法人合計：109 人

６．教育活動

６－１　教育課程

以下の２種類の教育課程が並存している。２カリキュラムは１カリキュラムの検討・反省のもとに作成されたものである。

２種類の教育課程

１カリキュラム（人文経営学部）― 平成 16(2004)年度に改定された教育課程。 平成 21(2009)年度の２・３・４年次が該当し、以下の３学科７専攻で構成される。 人間関係学科――人間社会専攻・心理臨床専攻 国際経営学科――総合経営専攻・経営情報専攻・国際秘書専攻 文化芸術学科――美学芸術専攻・国際文化専攻 ２カリキュラム（リベラルアーツ学部）― 平成 21(2009)年度に改定された教育課程。 平成 21(2009)年度の１年次が該当する。 総合経営学科 人間心理学科 総合文化学科

１カリキュラムでは、１年次に７専攻の教育概要を紹介する７つの「展望科目」すべてを履修した上で、各自の専攻を選び、２年次より、それぞれの学科・専攻に所属するシステムをとっていた。一方、２カリキュラムでは、１年次から各学科に属し「専門科目」を履修できるシステムとした。２カリキュラムにおける教育課程編成の概要は以下のとおりである。

２カリキュラムの教育課程編成の概要

共通科目	基礎科目 教養科目 キャリア科目 外国語科目 スポーツ健康科目	補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む １年次必修（第１・第２外国語） １年次必修を含む	
専門科目 （各学科）	導入的な科目 各専門の中心科目 発展的な科目	１年次 ２～４年次 ３・４年次	クロスオーバー履修 （他学科も履修可能）
	ゼミナールⅠ～Ⅳ 卒業研究	１～４年次必修 ４年次必修	

また、卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則６０単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

１カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

基礎教養的な科目	ウェルネス科目	４（必修）
	コミュニケーションリテラシイ科目	８（必修）
外国語科目	第１・第２外国語科目（注１） 第１外国語（英語） 第２外国語	１２ （内、必修４） （内、選択必修４）
コメンスメント科目	キャリアプランニング	２(必修)
	研究会（卒業研究を含む）（注２）	４(必修)
パースペクティブ科目	展望科目	１４(必修)
専門科目	各専攻の専門科目 （クロスオーバー履修を含む）（注３）	８０
合　計		１２４

（注１）残りの選択４単位分については、必要とされる外国語の種類が専攻ごとに異なる。

（注２）「卒業研究」は、４年次の「研究会Ⅱ」において合否判定される必修科目とする。

（注３）他専攻の専門科目・ウェルネス科目・外国語科目・キャリアプランニングの修得単位数を選択科目として組み込むことができる。各専攻の必修・選択・クロスオーバー履修の上限の単位数は、専攻ごとに異なる。

２カリキュラムの卒業に必要な最低単位数

	総合経営学科・総合文化学科	人間心理学科
共通科目	８（必修）	８（必修）
自学科の専門科目	７２ （内、必修 20 を含む）	７４ （内、必修 22 を含む）
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目（注）	４６	４６
合　計	１２６	１２８

（注）クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

なお、本学で取得できる資格は次のとおりである。

取得できる資格

資　格		主たる対象学科
秘書士、上級秘書士	全国大学実務教育協会	総合経営学科
情報処理士、上級情報処理士		
レクリエーション・インストラクター	日本ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ協会	
認定心理士	日本心理学会	人間心理学科
カウンセリング実務士	全国大学実務教育協会	
高等学校教諭１種免許状（情報）		総合経営学科のみ
中学校教諭１種免許状（英語・国語・社会）		総合文化学科のみ
高等学校教諭１種免許状（英語・国語・公民）		
学芸員		全学科 （ｸﾛｽｵｰﾊﾞｰ履修）

６－２　３学科の教育目的

各学科の教育目的については、１カリキュラムをもとに改良された、平成 21（2009）年度より実施されている２カリキュラムについて記す。

【総合経営学科】

経営管理・会計・組織・秘書・ＩＴや健康・スポーツなどについて、理論的実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てるために必要となる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠なＩＴスキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人としての基礎力を育成する。

【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築くことができる人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育成する。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができる人材を育成する。

６－３　クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度がある。この制度は、開学以来のものであり、他学科や他分野の科目の自由な履修を可能とし、幅広い教養人育成のために設けられている。

６－４　初年次教育

平成 15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、専任教員の指導を充実させてきた。開始時には、「1 年生ゼミ」（単位なし）を設けたが、平成 16(2004)年度の改組により１カリキュラムの「キャリアプラニングⅠ」（１単位・必修）となり、２カリキュラムでは「ゼミナールⅠ」（１単位・必修)に改定された。これらの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員１名につき８人前後の学生を対象としてなされる。具体的活動としては、履修指導、図書館オリエンテーション、球技大会等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。

また、基礎学力不足の学生に対しては、「基礎力リテラシー」という科目を設置しており、英語・国語・数学の基礎学力の補習指導を行っている。

初年次の第１外国語（英語・フランス語・ドイツ語・中国語）科目については、同一教員が週２回の授業を行うことで基礎力の充実をはかっている。その中でも英語科目に関しては、入学時に行う基礎力テストにもとづく習熟度別クラスを編成している。

６－５　少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているために、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。しかも、履修者数の上限を次のように設定している。

履修者数の上限（原則）

科目区分	履修者数の上限
情報機器科目	３０人
演習・実習科目	３０人程度
講義科目	６０人程度

また、１カリキュラムにおける３・４年次の通年必修科目である、専門分野の教育を中心とする「ゼミナール」、２カリキュラムにおける通年必修科目である１年次から４年次までの「ゼミナール」においても、少人数のクラス編成がなされている。

６－６　「ゼミナール」の目的と目標

少人数クラス編成によって、専任教員による丁寧な指導がなされている「ゼミナール」の目的と目標は以下のとおりである。前記したように、「ゼミナール」は、２カリキュラムにおいては、１年次から４年次まで通年の必修科目となっており、１年次と２年次には、学習面に加えて大学生活全般にわたる指導も行い、３年次と４年次には、

「卒業研究」につながる専門分野の教育を行っている。

２カリキュラムにおけるゼミナールの目的と目標

ゼミナール	目　　的	目　　標
Ⅰ （１年次）	大学における学習活動の基礎を作る	新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 簡単なレポートの作成
	学習習慣の定着化	意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢
	コミュニケーション能力を培う	教員や友人との信頼関係の構築
	自己表現力を培う	自己紹介などの自己表現練習
Ⅱ （２年次）	専門分野の選択へ向けた準備	専門分野の把握と自己の興味の確認
	問題解決能力の基礎を培う	問題点の指摘
	社会生活を営むための姿勢を培う	社会常識の理解、実践
Ⅲ （３年次）	専門分野の基礎を培う	専門分野の基礎の理解 専門分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成
	将来を展望する	進路と人生の目標の探求
Ⅳ （４年次）	専門分野に対する深い理解	専門分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成
	将来を展望する	進路についての明確な目標

このような目的・目標を達成するために、担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

・学生が履修科目選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
・履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
・各種資格取得を求める学生への支援
・学生の進路に関するキャリアセンターと連携した指導
・大学からの必要に応じた学生への連絡
・学生の個人的なさまざまな相談・指導

６－７　教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21 年度より運用を開始している。

平成 21 年度は設置初年度のため履修者は１年次のみであり、学年進行で平成 24 年度に完成を予定している。この間、教育実習、介護等体験、教員就職支援など必要な活動について随時準備を進める予定である。

教職課程の設置学科および取得可能な免許状

総合経営学科	高等学校教諭１種免許状（情報）
総合文化学科	中学校教諭１種免許状（英語） 高等学校教諭１種免許状（英語）
	中学校教諭１種免許状（国語） 高等学校教諭１種免許状（国語）
	中学校教諭１種免許状（社会） 高等学校教諭１種免許状（公民）

教職課程の履修要件*

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学１種	学士の学位を有すること	20 単位	31 単位	8 単位	59 単位
高校１種		20 単位	27 単位	16 単位	63 単位

＊教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則 66 条 6 により「暮らしのなかの憲法」「スポーツ実技Ⅰ・II」「外国語（1 科目）」「情報機器の操作Ⅰ・II」の履修が必須となる。また中学１種の取得のためには「介護等体験」が義務づけられる。

教職課程の登録は、２年次進級時に行う。１年次には、共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記３科目は「教職に関する科目」に算入される。

６－８　学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21 年度より運用を開始している。総合文化学科の正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されている単位

を修得すれば、学芸員の資格を取得できる。総合経営学科および人間心理学科の学生についても、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

なお、博物館法施行規則１条１に定める「博物館に関する科目」として「生涯学習論」「博物館概論」「博物館経営・情報論」「博物館資料論」「博物館実習」「視聴覚メディアと教育」「学校と教育の歴史」が設置されている（計 15 単位）。このほかに文化史・美術史・民俗学のうち２分野以上から８単位以上の選択科目を履修すれば学芸員資格を認定される。これらの選択科目は総合文化学科の専門科目として設定されており、必修科目を含めてすべて卒業単位に算入できる。

７．研究活動

７－１　教員の研究業績

本学専任教員の研究業績（過去５年分）については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

総合経営学科	http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/keiei_kyouin.php
人間心理学科	http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/shinri_kyouin.php
総合文化学科	http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/bunka_kyouin.php

７－２　研究・委員会活動

平成 21 (2009) 年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

・『紀要』第９号を刊行した。（原著論文３点、研究ノート１点、報告・資料４点）
・『日本橋学研究』第３号を刊行した。その刊行元である日本橋学研究所は、本学の歴史性に鑑み、都内日本橋地区における総合科学としての日本橋学の研究を行う目的で平成 19 年７月に設置された組織である。
・科学研究費補助金（日本学術振興会交付分）を申請し、３件のうち２件が採択された。
・ＦＤ関係は、外部講師等による「講演会」を３回(平成 21 年２月 18 日、９月 30 日、11 月４日)開催し、本学専任教員による「模擬授業」を３回（平成 21 年 10 月 21 日、平成 22 年１月 20 日、２月 17 日）実施した。

７－３　研究所・センター・その他

平成 21(2009) 年度の研究所・センター等における活動は以下のとおりである。

・日本橋学研究所主催で、講演会が開催（平成 21 年 10 月 24 日(土)・テーマ「日本橋と柏の深～い関係」）された。
・保健室により、「保健室だより（ *Nursing Magazine* ）」が、 平成 21 年６月 22 日に創刊され、以後毎月発行されている。

８．学生

８－１　学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成 21 年 5 月 1 日現在

学部・学科		入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生総数	在籍学生数			
						1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
						学生数	学生数	学生数	学生数
リベラルアーツ学部	総合経営学科	95	5	390	41	41	—	—	—
	人間心理学科	40	5	170	30	30	—	—	—
	総合文化学科	90	5	370	20	20	—	—	—
リベラルアーツ学部合計		225	15	930	91	91	—	—	—
人文経営学部	＊（教養課程）	—	—	—	2	2	—	—	—
	人間関係学科	—	2	—	131	—	31	31	69
	国際経営学科	—	2	—	205	—	38	71	96
	文化芸術学科	—	2	—	144	—	31	60	53
人文経営学部合計		—	6	—	482	2	100	162	218
合　　計		225	21	930	573	93	100	162	218

＊学部として入学し、２年次以降学科を選択するため、「教養課程」と表記

平成 21 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

		志願者数（人）	全志願者に対する割合（%）	入学者数（人）	全入学者に対する割合（%）
リベラルアーツ学部	千葉県	28	26.1	28	30.8
	北海道	2	1.9	2	2.2
	東北	8	7.5	5	5.5
	関東	31	29.0	26	28.5
	甲信越	3	2.8	3	3.3
	北陸	1	0.9	1	1.1
	東海	3	2.8	2	2.2
	近畿	0	0	0	0
	中国	0	0	0	0
	四国	3	2.8	3	3.3
	九州・沖縄	5	4.7	5	5.5
	その他	23	21.5	16	17.6
	合　計	107	100	91	100

【地域区分】【地域区分】

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県

甲信越：山梨県、長野県、新潟県

北陸：石川県、富山県、福井県

東海：愛知県、岐阜県、静岡県、三重県

近畿：大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、兵庫県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

８－２　留学生支援

平成 20(2008)年度まで、留学生に関わる事柄は留学生委員会と留学生支援課が担当したが、留学生の在籍者数の減少に伴い、平成 21(2009)年度からは学生委員会と学生支援課の所掌となった。留学生支援の観点から、平成 21(2009)年 10 月から非常勤の中国人職員を配置し円滑な支援を図るとともに、平成 22(2010)年 4 月からは常勤の事務職員として配置することで、継続的で、きめ細かな、留学生に対する支援を行っていく予定である。

留学生の進路は、過去のデータからみると、日本国内の大学院進学、日本国内の企業の就職、帰国というものである。日本国内の大学院進学希望者、就職希望者には、後述８－５就職・進学支援の項にある「就職支援講座」に参加を促し、また、東京外国人雇用サービスセンターの利用を勧めている。

８－３　奨学金制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の一般奨学金や私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間の奨学金、教育ローン等の情報を学生に提供しており、充実した奨学金制度活用となっている。今年度の奨学金給付・貸与状況は以下のとおりである。

奨学金の名称	学内学外の別	給付貸与の別	支給対象学生数	月額支給総額（円）	備　考
日本橋学館大学学生に対する住宅費補助	内	給付	42	875,000	遠隔地出身者で一人暮しの者に補助（年額 25 万円）留学生は除く

日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金	内	給付	122	2,104,500	学業、出席状況、経済状況を考慮して選考し、授業料の一部を免除
日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助	内	給付	2	15,833	入学時に住宅を賃借する際、一時金として月額家賃の３ヶ月分（上限10万円）を補助
日本橋学館大学特待生奨学金	内	給付	15	518,750	学業、経済状況等を考慮して選考し、授業料の一部を免除 留学生は除く
日本橋学館大学スポーツ・文化芸術特待生	内	給付	14	635,833	活動実績に応じて、授業料の一部を免除
兄弟・姉妹の入学者に対する減免制度	内	給付	1	14,583	本学に兄弟、姉妹が在学している入学者対象 入学金半額免除
地元高等学校出身者に対する減免制度	内	給付	5	72,917	地元高校出身の入学者対象 入学金半額免除
日本橋学館大学私費外国人留学生に対する奨励金	内	給付	4	80,000	人物、学業等を考慮し選考 （月額２万円）
日本橋女学館内部進学者奨学金	内	給付	1	57,917	併設校卒業の入学者対象
(独)日本学生支援機構奨学金	外	貸与	一種 20	1,076,000	自宅通学：3，5.4万円（月額） 自宅外通学：3，6.4万円
			二種 77	5,460,000	3,5,8,10,12万円（月額）から選択
			併用 11	1,290,333	一種、二種の併用
(独)日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費	外	給付	38	1,824,000	１年間受給（2～4年次対象）
			10	480,000	６ヶ月間受給（2～4年次対象）
レオパレス２１留学生奨学金	外	給付	1	10,000	６ヶ月間受給（１年次対象）

８－４　健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、彼らのさまざまな相談に適切に応じられるように努めている。特に、新入生に対しては、入学式直後に『ハンドブック』を配付して、学生生活、奨学金制度、健康管理等についての説明を行うなど、全学生が相談のための窓口や施設を利用しやすいように周知している。

・「なんでも相談」窓口

学生生活全般に関する窓口として、事務局窓口のどこに相談したら良いか分から

ないで迷っている学生に対して、一般的な相談に応えるほか、関係部署の紹介等を行っている。平成 21 年度秋から、留学生のために学生支援課に中国人職員を配置し、事務局窓口で相談に対応している。

・保健室

常勤の看護師が保健室に常駐し、毎日学生からの健康相談を受けている。４月には全学生を対象とした定期健康診断を実施した。また、看護師が毎月「保健室だより」を発行し、全学に向けて、その時々の健康に関する話題を提供し、健康への関心を高めている。また、新入生に関しては、入学直後に「保健調査票」を提出させ、学生の健康状態を把握し、相談体制に活かしている。

①学生利用者状況 所見あり※病気、怪我、メンタルヘルスの主訴が明確な学生（単位：人）

月 / 学年 / 在籍数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計		比率（%）	利用率（%）
1年	男	2	3	6	2	0	1	2	2	0	1	2	21			
92人	女	11	2	16	7	0	3	19	14	7	3	1	83	104	16	113
2年	男	13	9	11	5	1	1	6	2	4	2	2	56			
100人	女	2	2	5	1	0	0	3	0	0	1	0	14	70	12	70
3年	男	17	9	11	7	0	1	6	6	3	1	2	63			
162人	女	23	17	14	9	4	3	13	4	12	3	1	103	166	28	102
4年	男	27	32	30	32	0	5	24	28	21	14	3	216			
218人	女	4	10	7	6	0	3	7	5	3	1	0	46	262	44	120
計		99	84	100	69	5	17	80	61	50	26	11	602		100	105

症状別　（単位：件）

症状・疾患名		件数	計
外科	筋肉痛	13	
	捻挫	13	
	打撲	9	
	切り傷	23	
	その他	21	79
内科	頭痛	149	
	腹痛	144	
	咳・くしゃみ咽頭痛	143	
	発熱	9	
	その他	98	543
計		622	

所見有りの利用者　年次推移

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
利用者数（人）	1154	1060	976	816	602
在籍数（人）	966	935	867	714	573
利用率（％）	119	113	113	114	105

（在籍数は各年度5月1日現在）

所見なし（平成21年5月7日より集計）※病気、怪我などの主訴が特にない学生（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計		比率（％）	利用率（％）
1年92人	男		27	37	20	9	19	30	28	15	13	8	206	651	37	708
	女		50	88	64	9	9	79	88	35	20	3	445			
2年100人	男		5	14	9	1	1	8	5	3	2	1	49			
	女		4	12	1	0	1	3	5	8	6	0	40	89	5	89
3年162人	男		12	9	21	0	2	11	6	4	4	0	69			
	女		43	77	31	8	10	20	43	14	13	2	261	330	19	204
4年218人	男		53	51	55	7	17	45	49	33	38	1	349			
	女		48	59	49	1	18	40	50	41	34	1	341	690	39	317
計			242	347	250	35	77	236	274	153	130	16	1760		100	307

②新入生保険調査（９２人）　報告内容

・喘息・アトピー　：９人　・腰痛　：１人
・心臓病　：４人　・うつ病　：１人
・甲状腺機能低下症　：１人　・精神疾患（病名記載なし）　：５人
・生理不順　：１人　・発達障害様の症状　：１人

③学校感染症

Ａ型インフルエンザ　：２０人

結核：排菌有り１人、排菌なし１人（２人とも治癒）排菌者と濃厚接触者：４０人中６人が結核菌検査陽性。内服治療、もしくは保健所によるレントゲン撮影にて経過観察中。

・学生相談室

全学生が、主に心理的な相談を受けることができるように、専門の心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士１人）とピアカウンセラー（非常勤の本学心理臨床卒業生１人）、更に、本学の人間心理学科所属の専任教員（２人）により、週４日「学生相談室」を開室している。

学生相談室利用状況　　（単位：件）

学年（在籍人数）	月別利用件数									計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
1年（93人）	5	3	5	2	2	3	6	2	2	30
2年（100人）	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
3年（162人）	4	5	7	4	0	8	11	8	3	50
4年（218人）	5	5	3	7	1	1	9	4	3	38
保護者	2	1	3	0	0	0	0	1	2	9
計	16	14	20	13	3	12	26	15	10	129

相 談 内 容　　（単位:人）

	学業	進路	生活	心理	その他	合計
1年	0	1	0	6	0	7
2年	0	0	1	1	0	2
3年	1	0	1	4	0	6
4年	0	1	0	9	0	10
保護者	0	0	0	5	0	5
合計	1	2	2	25	0	30

学業：履修･留年･休学・研究・教職など　　生活：健康･課外活動･家庭･経済など

進路：大学院・専攻・就職・人生など　　心理：精神衛生・性格・対人関係など

その他の活動　　（単位：件）

活動内容	前期	後期	計
コンサルテーション	31	15	46
カウンセラーサロン ＜月・水＞ 12：00～13：00	28	44	72
カウンセラー予約外臨床 （保健室等、他の場所）	30	25	55
ピアカウンセリング 月 1～2 回・不定期	5	閉室	5

相談数・利用率推移　（在籍数は各年度 5 月 1 日現在）

	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
利用者　（人）	33	26	20	33	30
件数　（件）	103	116	69	179	129
在籍数　（人）	966	935	867	714	573
全利用率（%）	3	3	2	5	5
日本人学生数 ・利用率（%）	750	676	581	485	420
	4	4	3	7	7

・留学生相談室

留学生対象に、週 1 回、本学専任教員による「留学生相談室」を設け、学生生活全般から進路までの相談を受け付けている。

・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、原則週 1 回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

８－５　就職・進学支援

・キャリアセンターの取り組み

できるだけ多くの学生が卒業時に、希望する就職先や進学先を獲得するために、また、その相談・助言体制を整備するために、平成 19 年度に、従来の就職課をキャリアセンターとして改編した。

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会で、就職に関しては、求人状況、内定状況、支援講座の予定・出席状況、大学院進学状況等の現実分析に基づき、教授会の委員会報告において本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

３年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成 21 年度においては、87 人の就職希望者に対する年間の相談・指導実績は延べ 1,630 件であった。

また、「就職支援講座」・「公務員・就職試験対策講座」・「大学院進学支援講座」の出席学生状況・その感想記録、ＳＰＩ模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料にしている。

・進路支援講座の開催

就職希望者には、３学次を中心にして、年間 15 回の「就職支援講座」を開催している。この「就職支援講座」の総延べ参加学生数は、平成 21 年度は 775 人であった。なお、今年度から、この「就職支援講座」に、早い時期から進路を考える機会を与えるために、１年次から参加できるようにした。主な「就職支援講座」は、「就職状況・就職活動の方法」・「適性検査」・「自己分析」・「履歴書の書き方」・「面接攻略法」である。「就職支援講座」には、４年次の就職内定者、卒業生、主に卒業生が就職している企業の人事担当者にも協力を得て、運営している。４年次の就職内定者には「先輩の就活体験談」、卒業生には「仕事体験談」、企業の人事担当者には「企業が求める人材」・「学内合同企業説明会」というテーマで協力を得て開催している。

また、これに加えて、４年次就職希望者の内定状況に応じ、希望業種の企業を招き「学内合同企業説明会」を開催している。平成 21 年度においては２回開催した。更に、千葉県大学就職指導会主催の 29 大学合同「就活応援セミナー」には、本学キャリアセンター職員が出張し、本学の参加学生 43 人のサポートを行った。

進学に対する相談・助言体制は、大学院進学を主にし、「大学院進学支援講座」を起点に、ゼミの担当教員中心に行われている。

今年度の「進路支援講座」の実施内容、参加人数は次のとおりである。

進路支援講座

	日　　時	教室	講座内容	学年	参加人数

就職支援講座

1	5／21（木）、 22（金） 4時限	201	夏までに決める就活講座 （内定を勝取る就活講座）	4	29
2	5／29（金） 4時限	201	学内合同企業説明会（５社）	4	15
3	6／11 （木）、 12（金）4時限	201	就職環境・就職活動の方法など	3	67
4	6／18 （木）、 19（金） 4時限	201	適性診断テスト（R－CAP）	1～3	100
5	6／18（木）、 19（金）午後	111A	就職サイト登録会 （リクルート）	3	87
6	6／25（木） 4時限	201	学内合同企業説明会 （５～６社）	4	22
7	6／25（木）、 26（金）午後	111A	就職サイト登録会 （エンジャパン）	3	61
8	7／2（木）、 3（金）午後	111A	就職サイト登録会 （マイナビ）	3	55
9	7／9（木）、 10（金）4時限	201	適性診断（R－CAP）解説講座	1～3	68
10	7／16（木）、 17（金）4時限	201	ＳＰＩ模擬試験 （就職試験対策）	1～3	64
11	10／1（木）、 2（金）4時限	201	自己分析講座（R－CAP）	1～3	26
12	10／15（木）、 16（金）4時限	201	仕事やりがい発見講座 (R－CAP)	1～3	25
13	10／29（木）、 30（金） 4時限	201	自己ＰＲ作成講座（R－CAP）	1～3	27
14	11／6（金）5時限	201	先輩の就活体験談	3	33
15	11／20（金）5時限	201	業界研究・企業が求める人材	3	23
16	11／26（木）、 27（金）4又は5時限	201	履歴書の書き方	3	51
17	12／3（木）、 4（金）4時限	201	面接攻略法	3	42
18	1／27（水） 13：00 ～16：00	201	就職支援セミナー（学内合同企業説明会・マナー講座）	3	46

公務員試験対策就職試験対策講座

1	9／14 ～17（4 日間） 10：30～16：00	107 109	公務員試験対策 就職ＳＰＩ試験対策①	1～4	公務員 12 ＳＰＩ 32
2	1／28 ～2／2（4 日間） 10：30～16：00	107 109	公務員試験対策 就職ＳＰＩ試験対策②	1～3	公務員 10 ＳＰＩ 34

大学院進学支援講座

4／23（木）、24（金） 5 時限	池沢 研究室	大学院合格体験談 大学院学生生活など	1～4	23

保護者対象進路個別相談会

10／25（日）10：00 ～16：00	105 106	保護者対象進路個別相談会	1～4	8 組

８－６　卒業生の進路　　(平成 21 年度)

平成 22 年 4 月 30 日現在

卒業者数			内訳						
			就職希望者			進学	アルバイト	帰国結婚	その他
			内定者	活動中	計				
人文経営学部	男	105	38 (69%)	17 (31%)	55 (100%)	11	21	7	11
	女	63	23 (72%)	9 (28%)	32 (100%)	12	6	7	6
	合計	168	61 (70%)	26 (30%)	87 (100%)	23	27	14	17

<table>
<tr><th>専攻
人数</th><th>就職
（進学）</th><th>専攻
人数</th><th>就職
（進学）</th><th>内 定 企 業 名（複数内定者数）
進 学 校 名（複数進学者数）</th></tr>
<tr><td>人間
社会
２１</td><td>８
（１）</td><td>心理
臨床
３１</td><td>１１
（３）</td><td rowspan="4">＜内 定 企 業 名＞
建設・不動産：ひらい・エムズプライムトラスティ・
金木木材工業
製造：旭紙業・野田産業
卸売：ダイドー・オージー・東京ブラザーシューズ・ビヨンドコーポレーション（２）・グリーントロニクスジャパン・麒麟貿易・中商・Ａ＆Ａ商事・優以駿
小売：ケーズホールディング・マルヤ・ジャパンビバレッジ・カワチ薬品・東京シャツ・信英商事・エルソニック・西島畜産・エール・オンデーズ・雅政・ポイント（２）・ＴＡＫＡＤＡ（２）
運輸：大東港運・美鈴タクシー
飲食：ユーシーシーフードサービスシステム・興和商事・タナカ・ＬＣ商事
金融・保険：丸三証券・ひまわり信用金庫
情報：光通信・ヤマトシステム開発・日本アイティ産業（２）・アスカ・コーマツグラフィカ
サービス：綜合警備保障（２）・トヨタレンタリース千葉・パソナ・ホテル丸谷・ＷＩＴＳ・アイアール・エーライツ・倪莉麗行政書士事務所
医療・福祉：桐和会
公務・団体：千葉県警察本部・茨城県潮来土木工事事務所（臨時職員）・茨城県河内町役場（臨時職員）

＜進 学 校 名＞
進学（大学院他）：立教大学大学院ビジネスデザイン研究科・関東学院大学大学院文学研究科・目白大学大学院国際交流研究科（２）聖徳大学通信教育学部、大東文化大学大学院研究生・日本橋学館大学研究生（１５）
進学（専門学校）：華学園栄養専門学校・音響芸術専門学校
※順不同</td></tr>
<tr><td>総合
経営
２１</td><td>８
（４）</td><td>経営
情報
４１</td><td>１６
（９）</td></tr>
<tr><td>国際
秘書
１９</td><td>９
（２）</td><td>美学
芸術
１７</td><td>３
（３）</td></tr>
<tr><td>国際
文化
１８</td><td>６
（１）</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

９．学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。（平成 21 年 5 月現在）

体育系		文化系	
クラブ	人数	クラブ	人数
硬式野球	27	美術（artistic）	15
硬式テニス	10	軽音楽	29
バスケットボール（男子）	10	吹奏楽	6
バドミントン	11	食文化研究（SWEETS）	10
フットサル（男子）	7	演劇	9
ダンス（N.G.U.tribe）	10	ボランティア（VANGURD）	36
ミニテニス	5	国際交流	10
陸上競技	4	文芸	7
バレーボール	9	気晴らし娯楽演芸研究会（ENTERTAINMENT）	11
	計 93 人		計 133 人

同好会	人数	同好会	人数
剣道	7	資格取得	5
卓球	9	シェイクスピア	4
	計 16 人	サブカルチャー	6
			計 15 人

学生のスポーツおよび文化活動においては、結果如何にかかわらず、以下のとおりの活発な活動がなされた。またその活動の中には目立って優れた結果を残すものがみられ、他の学生の良い刺激になっている。

・フットサル部（五大学対抗で二位）

・剣道同好会（春季柏市民剣道大会で一回戦敗退）

・バスケット部（第 58 回関東大学バスケットボール選手権大会と第 85 回関東大学バスケットボールリーグ戦で敗退）

・硬式野球部（千葉県大学野球リーグ戦で３部優勝）

・陸上競技部　林武彦（第 88 回関東学生陸上競技対校選手権大会において三段跳び２部優勝、第 62 回千葉県陸上競技選手権大会において三段跳び二位）

・演劇部（とみさと子ども演劇祭にて公演）

・吹奏楽部（第 56 回柏市文化祭において演奏）

・気晴らし娯楽演芸研究会(新キリンレモンキャンペーン踊る部門キリンレモン賞）

・美術（artistic）部（茨城県芸術祭美術展覧会と小美玉市民文化祭に参加）

・北村理沙子（第 59 回埼玉県美術展覧会で入選）

また、学長賞は、硬式野球部、硬式野球部マネージャー鈴木鮎美、元学生会会長高橋直也に、岩山基金特別賞は陸上部で成果を上げた林武彦に授与された。

10．社会的活動

１０－１　生涯学習支援センター

・市民公開講座の実施

次のような内容の１５講座を開講し、215 人の受講者があった。

平成２１年度　公開講座一覧表

開催日	講座名	担当教員	受講人数
	万葉の時代－平城遷都 1300 年によせて－		
9/26(土)	大伴家持とその時代 －新興の氏藤原氏の台頭と名負いの氏大伴氏－	太田英比古	39
10/3(土)	『万葉集』額田王の蒲生野贈答歌について	服部　一枝	15
10/10(土)	『古事記』と日本神話	柳沢　孝子	28
10/17(土)	阿倍仲麻呂と唐代の文人－李白・王維を中心に－	三枝　秀子	21
10/31(土)	『万葉集』と日本近代文学－国民歌集化への道－	佐々木さよ	10
11/7(土)	『万葉集』の翻訳をめぐって	横山　幸三	8

	一般		
11/14、21(土)	和泉式部の恋　－帥宮敦道親王との恋愛を中心に－	服部　一枝	6
11/2、9、16(月)	谷崎潤一郎の世界	柳沢　孝子	12
10/1、8、15(木)	桜と日本近代文学	佐々木さよ	8
10/3、10(土)	英語圏文学とは何か	横山　幸三	6
9/29、10/6、13、20、27(火)	原文で読む『ハムレット』	安田比呂志	9
10/1、8、15、29(木)	原文で読むドイツ文学	阿部　雄一	7
10/19、26、11/2、9、16(月)	ヨーゼフ・ハイドン再評価（２）	飯森　豊水	13
10/13、20(火)	伝教大師最澄と弘法大師空海の交流－泰範の去就問題に関連して－	太田英比古	28
10/30、11/6、13、20、27(金)	太りにくい、身体をつくろう！－ミニテニス－	高橋　早苗	5

・講演会の開催

次の３回の講演会を実施した。

①平成 21 年 9 月 10 日(木)　於：アミュゼ柏

「中高年者の健康長寿と介護予防に役立つ運動の効果」 芳賀脩光

②平成 21 年 11 月 10 日(火)　於：我孫子プラザホール

「運動による中高年者の健康づくりと疾病・介護予防」芳賀脩光

③平成 22 年 3 月 25 日(木)　於：本学２０１教室

「中高年者の健康長寿と介護予防に役立つ運動の効果」芳賀脩光

・中高年者の健康づくり運動教室の開催

柏市民対象に 21 回、我孫子市民対象に 18 回開催し、参加者数は合計約 50 人。

１０－２　大学コンソーシアム柏

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。本学においては、平成 21 年 7 月 4 日（土）に塩澤寛樹教授による「ふるさとの御仏～下総の仏像」の講演を行った。

１０－３　図書館関係

・第２回図書館祭

平成 21 年 4 月 4 日（土）に行われ、参加者は約 400 人であった。

・ほぼ月らいぶ

平成 21 年 4 月 4 日（土）に「第 7 回ほぼ月ライブ」を行い、平成 22 年 2 月 20 日（土）「第 13 回ほぼ月ライブ」を行うまで、計 7 回実施した。本学図書館内・こもれびホール・体育館にて開催した。動員人数は合計約 900 人であった。内容は次のとおりである。

No.	タイトル	開催日	動員人数
1	音のさんぽみち クラシックからポピュラー まで、豊かに奏でる音の数々	平成 21 年 4 月 4 日（土） 13:30～14:30	151
2	牧田ゆき“チャマメ”ライブ	平成 21 年 5 月 30 日（土） 14:00～15:15	60
3	柏市立酒井根中学校 吹奏楽部コンサート	平成 21 年 7 月 19 日（日） 14:00～15:15	155
4	市柏吹奏楽部 mini コンサートⅡ	平成 21 年 9 月 26 日（土） 14:00～15:15	210
5	まえだまどかアコースティックライブⅡ	平成 21 年 10 月 25 日（日） 11：00～12：00	大学祭
6	あの名編を音楽とともに 心がふるえる朗読のひととき	平成 21 年 12 月 12 日（土） 13:00～15：00	89
7	バロックヴァイオリンの 名曲を集めて	平成 22 年 2 月 20 日（土） 14:00～15:50	158

・摘水軒コレクションの展示　　（図書館内）

平成 22 年 1 月より 3 月まで「摘水軒記念文化振興財団」の全面的な協力を得て、その貴重な作品を月替わりにて展示した。

＜**摘水軒記念文化振興財団**は、文化活動のセンターとしてのルーツを江戸時代に遡る。昭和 30 年に「財団法人 寺島文化会館」の名称で、文化活動の振興と青少年児童の文化向上発展に寄与するために、柏市に設立された。その後、平成 7 年、柏駅前に文化施設「寺島文化会館」をオープンさせ、文化財事業を中核におく事業に活動をシフトし、平成 17 年度より、財団法人摘水軒記念文化振興財団に改め、文化サロン「摘翠軒」にちなみつつ、「翠（みどり）」を育んだ地域と人とを「水」に象徴して「摘水軒」という財団名に改称した。現在、そのコレクションの中でも、肉筆浮世絵、岡本秋暉、花鳥・動物画の 3 カテゴリー

からなる江戸絵画は、日本内外で一定の評価を得ており、一方では、アマチュア美術家を対象にした公募展「柏市美術展」の開催や、アート団体への助成金の給付事業などもなっている。＞

１０－４　日本橋学館大学協力会

平成 21 年 7 月 11 日（土）に設立総会を開催した。会長に寺嶋哲生氏（柏商工会議所副会頭）が就いた。

＜「日本橋学館大学協力会」は、本学学生の生活を支える柏地域の人々を中心に、不動産業ならびに仲介業、商店主、商工主、柏地域の住民（企業）の方々に本学ならびに本学学生の支援、指導をお願いする目的で、柏商工会議所の後援により設立された。＞

１０－５　出張授業

中学生･高校生を対象に、その中学校・高等学校に本学教員が出向き、大学での学習の楽しさを伝え、また、本学の教育内容の充実と本学の良さをも伝えた。

・平成 21 年　7 月 28 日　クラーク記念国際高校（静岡キャンパス）
・平成 21 年　11 月 11 日　我孫子市立湖北台中学校
・平成 21 年　11 月 13 日　都立隅田川高等学校

１０－６　地域における活動

千葉県柏市・印西市、東京都、神奈川県、愛知県における、各種委員会活動・講演会、カルチャーセンター・研修会・生涯教育の場に、本学教員が講師・委員として参加した。

11. 募集活動

１１－１　「大学説明会」の開催

・平成 21 年 7 月 10 日（金）本学併設校会議室において、東京都立高等学校長を対象として実施し、本学における教育の良さをアピールした。１６校の都立高等学校の校長先生方が参加された。
・平成 21 年 7 月 24 日（金）本学内において、近隣高等学校の進路指導教諭対象として実施した。14 校の先生方が参加された。

１１－２　学長による高等学校長訪問

・平成 21 年 6 月 16 日（火）より 9 月 1 日（火）まで、近隣の２５校の高等学校長を訪問し、本学の良さをアピールするとともに、校長先生方との親睦を深めた。
・平成 21 年 7 月 21 日（火）より 9 月 1 日（火）まで、千葉県に隣接する６校の東京都立高等学校長を訪問し、本学の良さをアピールするとともに、校長先生方との親睦を深めた。

１１－３　本学専任教員による高等学校訪問

各教員が担当する高等学校を訪問した。訪問地区は次のとおりである。

千葉県	大学を中心とした東葛飾地区、総武線（市川や浦安）地区
東京都	23 区の特に千葉寄りの地区
茨城県	水戸市より南の地域
埼玉県	さいたま市より千葉県寄りの地区
群馬県	高崎市・前橋市を中心とした地区
新潟県	新潟市・長岡市を中心とした地区
福島県	福島市・会津若松市・いわき市を中心とした地区
静岡県	静岡市・沼津市(三島市)を中心とした地区

１１－４　併設校との交流

平成 21 年 12 月 14 日（月）12 時 30 分より 15 時 30 分まで、日本橋女学館高等学校１年生を対象とした「大学見学会」を開催した。

１１－５　オープンキャンパスの開催

計 16 回開催し、教職員のみならず、在校生も加わり、高校生に本学の良い印象を与えるように努めた。

オープンキャンパスへの参加者が本学についての情報を得たのは、「人から聞いた＝口コミ」が 38％と一番多く、次に「高校の進路資料やポスター」、「ホームページ(HP)」が 21％であった。「進学情報サイト」は 10％だが、ホームページと合わせると約 30％になる。例年、その中でも、学内を案内するキャンパスツアーは高評価であったが、平成 21 年度は教員との個別面談がそれを上回った。オープンキャンパスに関する具体的内容は次のとおりである。

OPEN CAMPUS 2009　参加者及びアンケート集計結果

OC 開催日程および参加者数

開催日	参加者 人数	内、3 年生 （受験対象者。リピ除く）
3 月 20 日（祝）	2	2
4 月 25 日（土）	7	7
5 月 30 日（土）	15	14
6 月 27 日（土）	18	15
7 月 11 日（土）	29	24
8 月 2 日（日）	50	37
8 月 7 日（金）	13	5
8 月 8 日（土）	37	16
8 月 16 日（日）	61	17

男女比

性別	人数	割合
男	179	44％
女	223	55％
不明	3	1 ％
計	405	100％

8月26日（水）	37	14
8月29日（土）	46	21
9月26日（土）	33	28
10月24日（土）	22	13
10月25日（日）	17	10
12月5日（土）	8	8
1月16日（土）	10	5
合計	405	236

参加者の分類

分類	人数	割合	分類	人数	割合
3年	303	75%	社会人	2	0.5%
2年	60	15%	留学生	2	0.5%
1年	23	6%	その他	9	2%
既卒者	5	1%	合計	404	100%

・県別参加者数

参加者の県別割合は約半数が千葉県であった。ついで東京都、茨城県となっている。茨城県からの参加者数が少ないのは、近隣の競合大学に流れている可能性が高い。

また遠方からの参加者は、地方で行った進学相談会にて、多数の大学の中から本学に興味を持ち来校したケースである。

千葉県	188人	東京都	87人	茨城県	52人	埼玉県	38人
神奈川県	8人	福島県	5人	新潟県	5人	栃木県	4人
長野県	2人	新潟県	1人	不明	17人	合計	407人

・参加者の進学希望学科

人間心理学科への進学希望の参加者は36%と、全体の約3分の1を占めている。総合経営学科と総合文化学科については同じ23%、未定の参加者は18%であった。

総合経営学科	94	人間心理学科	146	総合文化学科	93	未定	72	合計	405

１１－６　入学試験の実施

ＡＯ入試	9回	平成21年9月12日～年度末
推薦入試	7回	平成21年11月7日～年度末
一般入試	3回	平成22年2月4日～年度末
特待生入試	3回	平成21年11月7日～年度末

留学生特別入試	6回	平成21年10月10日～年度末
編入学入試	5回	平成21年9月12日～年度末
スポーツ･文化･芸術入試		随時実施
訪問入試		随時実施

12. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があるため、校舎面積は充分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

１２－１　校地、校舎等の面積

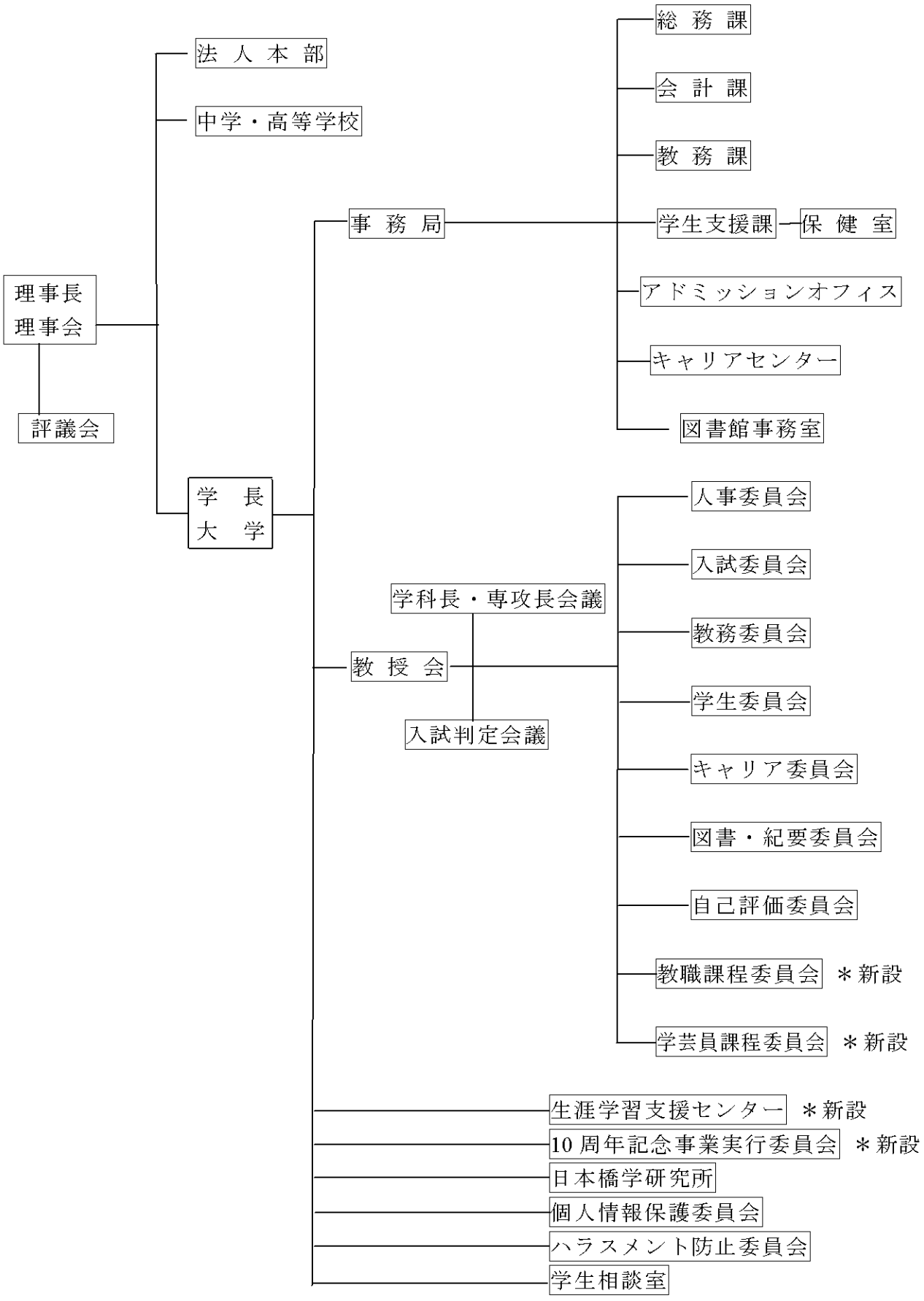
比較 / 対象	収容定員	校地			校舎		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
日本橋学館大学	976人	9,300㎡	25,783㎡	16,483㎡	5,388㎡	8,079㎡	2,691㎡

＊　校地・校舎ともすべて専用

１２－２　講義室、演習室、学生自習室等の概要

建物区分(面積)		用　途　＊（ ）内は部屋数
校舎	1号館 (4,159㎡)	大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(9)、ゼミ室(3)、CALL教室(PC34台)、コンピュータ教室(4教室・PC120台)、和室、学習指導室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC2台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局（総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室）、会議室（2）学生ホール(106㎡)、学生食堂(345㎡)、学生会室、用務員室
	2号館 (1,903㎡)	大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、生涯学習センター、学生自習室、保健室、学生相談室
	図書館棟 (2,005㎡)	図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10台)、応接室、書庫、こもれびホール(163㎡)、教室(2)、日本橋学研究所、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室
	警備室（12㎡）	受付
計　8,079㎡		
体育関連施設(1,319㎡)		体育館(1,037㎡)、トレーニングルーム(222㎡)、管理室、シャワー室　＊別棟の男子更衣室(60㎡)含む

１２－３　管理運営体制


理事長
理事会
評議会
法人本部
中学・高等学校
学長
大学
事務局
総務課
会計課
教務課
学生支援課
保健室
アドミッションオフィス
キャリアセンター
図書館事務室
学科長・専攻長会議
教授会
入試判定会議
人事委員会
入試委員会
教務委員会
学生委員会
キャリア委員会
図書・紀要委員会
自己評価委員会
教職課程委員会 ＊新設
学芸員課程委員会 ＊新設
生涯学習支援センター ＊新設
10周年記念事業実行委員会 ＊新設
日本橋学研究所
個人情報保護委員会
ハラスメント防止委員会
学生相談室

日本橋学館大学　年次報告書

平成 21 年度

平成 22 年 9 月 6 日発行

編集：日本橋学館大学　『年次報告書』作成チーム
（勝野まり子、古賀毅、三枝秀子、服部一枝）
発行：日本橋学館大学
〒277－0005
千葉県柏市柏 1225－6
TEL　04－7167－8655